

即時象牙質シーリングおよび暫間修復プロセスが CAD/CAMセラミッククラウン修復の接着に及ぼす影 響

著者	林 孝太郎
学位名	博士(歯学)
学位授与機関	日本歯科大学
学位授与年度	2018
学位授与番号	甲第1190号
URL	http://id.nii.ac.jp/1102/00000867/

氏名(生年月日)	林 孝太郎 (平成元年12月27日)
本籍	東京都
学位の種類	博士(歯学)
学位記番号	甲第1190号
学位授与の日付	平成31年2月22日
学位授与の要件	
学位論文題目	即時象牙質シーリングおよび暫間修復プロセスがCAD/CAMセラミッククラウン修復の接着に及ぼす影響
論文審査委員	主査 五味 治 徳 副査 荻 部 洋 行 菊 池 憲 一 郎

論文内容の要旨

即時象牙質シーリングは接着性増進に寄与することが知られているが、今後の歯科医療を担うCAD/CAMクラウン修復への検証はなされていない。また、通法の間接修復に求められる暫間修復プロセスの影響を客観的に把握しておくことは、臨床上有益である。本研究では、ヒト抜去健全下顎小白歯にCAD/CAMセラミッククラウン修復を行い、即時象牙質シーリングおよび暫間修復プロセスの有無による影響について、繰り返し荷重負荷後の咬合面と軸面における微小引張接着強さ (μ -TBS 値)、接着信頼性および接着耐久性の観点から検討を加え、以下の結論を得た。

1. 即時象牙質シーリングの応用は、 μ -TBS 値の向上に有益であった。
2. 暫間修復プロセスは、 μ -TBS 値に影響を与えなかった。
3. 咬合面と軸面の μ -TBS 値間に有意差を認めなかった。
4. 咬合面の μ -TBS 値に対し、即時象牙質シーリングは有意な影響を与え、暫間修復プロセスは影響を与えなかった。
5. 軸面の μ -TBS 値に対し、即時象牙質シーリングおよび暫間修復プロセスは影響を与えなかった。
6. 即時象牙質シーリングは、接着信頼性・耐久性の向上に有益であった。
7. 咬合面における接着信頼性・耐久性は、即時象牙質シーリングを施し、暫間修復プロセスを行わない条件が最も優れていた。

論文審査の要旨

本研究は、即時象牙質シーリングと暫間修復プロセスの有無がCAD/CAMセラミッククラウン修復の接着に及ぼす影響について精査したものである。その結果、即時象牙質シーリングは、 μ -TBS 値、接着信頼性および接着耐久性の向上を促し、特に即時象牙質シーリングを経て、暫間修復プロセスを行わない条件が最も優れていることを明らかにしている。これらは、近年、進展目覚ましいCAD/CAMクラウン修復に際し、貴重な示唆を与えるものであり、歯学に寄与するところが多く、博士(歯学)の学位に値するものと審査する。